

TCFD サミット総括（仮訳）

本日の我々の議論は、企業と投資家の対話における TCFD の枠組みの重要性を再確認しました。我々は、TCFD 開示の旅路を前に進めるために、どのような点において更なる努力が必要かを明確にしました。本日、多くのリーダーが指し示した今後の重点分野は以下のとおりです。

「環境と成長の好循環」を加速するためには、企業価値を向上させ、投資リターンを増やす資金のポジティブな流れを生み出すことを可能とする建設的なメカニズムが必要です。本日、TCFD コンソーシアムが公表した「グリーン投資ガイダンス」は、こうした企業と投資家の対話を促進する有用なツールとなるでしょう。

どのように企業が野心的な目標（と「大きな飛躍」のための計画）を設定し、気候変動をガバナンスに組み入れ、進捗を株式市場に開示すべきか、についての議論が行われました。

我々は、気候変動リスクとその評価の方法だけでなく、ネットゼロ社会への移行がビジネスにイノベーションのチャンネルを提供するという事業機会についても、明確に理解することによって、より持続可能な資金供給のシステムへの移行を進める必要があります。TCFD 開示を投資家の意志決定に役立つようにすることは、こうした開示の改善において重要な要素です。

環境と成長の好循環の実現を加速させるためには、投資の引き揚げ（ダイベストメント）には手法として限界があり、むしろ建設的な対話（エンゲージメント）の方が、エネルギー転換に向けた資金のポジティブな流れをより生み出す上で、より強力なツールである、という議論が行われました。

また、議論の過程で、我々はイノベーションの機会が何であるかを明確に把握するために現在行われている様々なイニシアチブを聞きました。これらには下記が含まれています。

- TCFD 企業情報開示者向けフォーラム（TCFD preparer forum）
- グリーン事業収入（green revenue）の測定
- 気候関連指数の創出
- 「グリーン」や「環境的サステナブル」の定義をより明確に確立するのに役立つ政策枠組みの実施

これらのイニシアチブは、TCFD フレームワークをメインストリームとして組み込むのに役立ちます。

そして最後に、急激な成長、インフラ投資、増加するグリーン投資需要が想定されるアジアにおいて、TCFD 提言に沿った気候関連開示を促進することが重要です。アジアの継続的な経済発展を促進し、低炭素社会への円滑な移行を後押しするためには、この地域で実用的なアプローチを採用することが重要です。同様に、「50段階の色合いのグリーン」（注）を示していくことをも念頭に置きつつ、この地域での移行に貢献しうる低炭素技術群を提示することが重要です。

（注）英語では、“50 shades of green”。グリーンであるか否かの二進法的な分類ではなく、進歩幅や移行の観点をも加味した評価軸の比喻として用いられた言葉。

また、我々は、TCFD を支持し、その提言の履行に向けた取組に集中するためにも、世界の産業界、金

融界、政府、規制当局、国際機関等を含む幅広い利害関係者をまとめるための継続的な努力が必要だと明確に呼びかけました。これは、地球規模での「環境と成長の好循環」を加速させる重要な触媒になります。

そのため、我々としては、来年東京で再びTCFDサミットを開催します。そしてTCFDコミュニティが作り出す更なる進展を聞く機会を楽しみにしています。我々はまた、日本のTCFDコンソーシアムが、アジアを含む世界中からベストプラクティスを収集し普及させることを通じて私達の取組を引き続き後押しすることを期待します。

最後に、今日の議論から、TCFDが低炭素経済への移行を導く上で重要な役割を果たしていることが十分に明確であることを付け加えたいと思います。したがって、TCFDの営みが継続され、重要な議論と学びの機会のためのプラットフォームと推進力を提供し続けることが最も重要です。

改めて皆さまのとても貴重な貢献に感謝を申し上げますとともに、2020年に再びお目にかかれることを楽しみにしています。